

私は茨城県水戸市に生まれましたが、父親が転勤族だったため、その後は2～3年毎に引っ越し(転校)を繰り返し、主に水戸と東京で幼稚園2つ、小学校3つ、中学校2つに通いました。その時の経験からなのか…以前勤めていた会社で札幌転勤となってからは、子供のためにも北海道に腰を落ち着けたいと考えるようになりました。大都会よりは自然に囲まれた環境が好きだったことも北海道定住を決めた理由の一つでした。そもそも地質学の道へと進んだ理由も、大地の成り立ちを探るといった自然相手の学問に壮大な夢とロマンを感じたことが大きな理由でした。大学の卒論・修論では飛騨変成帯の変形・変成作用に関する研究を行いました。私のフィールドでは、マイロナイト・シュードタキライト・石灰岩メランジェ・フラワーストラクチャー・シースフォールド・ナップ構造など、当時の構造地質学分野で少なからず認知度が高まってきた様々な造構運動の痕跡を目の当たりにすることができ、好奇心旺盛な私の性格からして、日々のフィールドワークが楽しくて仕方ありませんでした。この滝を越えたら目の前に『桃源郷(新たな発見の宝庫)』が広がっているのではないかと…といった具合です。今回、この文章を書きながら、そんな学生時代の新鮮な気持ちをあらためて思い出すことができました。この業界に身を置いていると、つつい日々の仕事の忙しさに埋もれてしまいがちになりますが、私たち建設コンサルタント技術者の一人一人がもっと輝かなくては業界の発展はありません。地域の発展や人々の安全を守る重要で魅力ある仕事であることを誇りに、これからも自己研鑽・後身育成・業界の発展等に貢献していきたいと思えます。

## 長瀬 眞央 (ながせ まお)

● 総監・応用理学部門(地質)  
建設部門(土質及び基礎)

### 勤務先

株式会社 開発工営社 共通事業本部 地質部  
E-mail : nagase@kai-koei.co.jp



→ 次号は、山田 邦博さん(建設部門)

私は1964年3月に小樽市に生まれ、以降小学校1年生から中学校・高校・大学・3回の転職(いずれも建設コンサルタント業)と転勤もなく、ずっと札幌市内におり、グローバル時代に反して「井の中の蛙」を通しております。逆に珍しいかもしれません。

## 齊藤 彰 (さいとう あきら)

● 建設部門(都市及び地方計画)

### 勤務先

日本データサービス株式会社  
企画部



→ 次号は、青山 裕俊さん(農業・建設部門)

職についてからは、まちづくり、地域振興のお手伝いをしてきましたが、私の20数年のキャリアを通じて、結局、北海道の市町村・地域の課題は変わらないと感じており、「地域の良さ・資源を活かしていかにか地域経済・コミュニティの活性化を図るか?」という命題をいつも考えながら働いております。

しかしながら、少子高齢化・財政の逼迫・地域経済の低迷などを理由に、課題解決策の選択肢が狭まっていくのが心配なところでもあります。成功事例に掲げられているまちづくり事例も時代の変遷とともに修正する必要があるところが少なくありません。最近、地域社会あるいはそれを支える社会基盤の老朽化とどう向き合っていくのか、という課題がつけつけられております。このように常に課題がありその解決策を社会・地域に提案していくのがコンサルタントであり、まちづくり・地域振興の分野にあっても飽きることがなく、高度に情報化された社会にあってはどこにいても仕事できるという環境にあります。また、必要に応じてどこにでもいける交通インフラが整っているのはこのうえない幸せと感じております。このようなことから、改めて社会基盤の地域振興に果たしている役割、ありがたさを感じつつ、このまま札幌に骨を埋めるのかなと想像しつつ、北海道の地域振興のためにできることは何でもしようと思っている次第です。